

重点11 教職員研修の充実

1B 教職員の資質向上（中学校）

ねらい

中学校にあっては、義務教育の最終段階として、一人一人の生徒が社会生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度を確実に身につけ、豊かな人間性を育成するとともに、自然や社会、人、文化など様々な対象とのかかわりを通じて自分のよさ・個性の発見・伸長を図り、自立心をさらに育成していくことをめざして教育しています。そのために、教師としての専門的知識や指導技術を高めるとともに、広く豊かな教養を身につけるため、研修を進めています。

現状

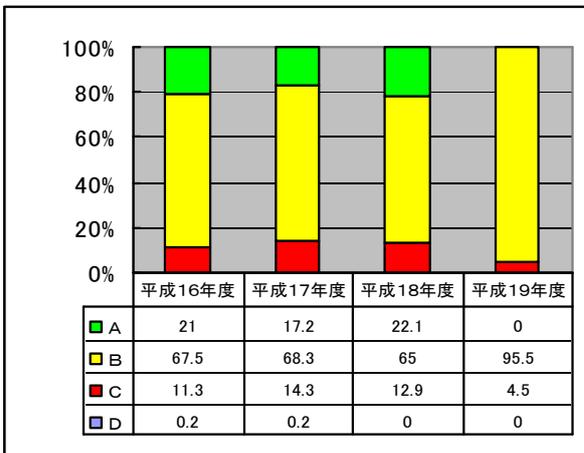
○ 研修の内容・組織・運営

- ・ 指導主事を要請して、教科の授業公開による研修を行った学校が平成18年度は22校中16校、平成19年度は18校ありました。中学校ではこの数年の間に、それまでの総合的な学習の時間や人権・同和教育の研修から、教科の研修を校内研修の中心として行う傾向がますますはっきりしてきています。
- ・ Q-U調査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）に関する研修や特別支援教育に関する研修を取り入れている学校も増えています。
- ・ 平成18年度から市内の全中学校区で始まった学びの一体化の取組の一つとして、中学校区の幼稚園や小学校に授業を公開し、事後研修会を行う学校が数多くありました。

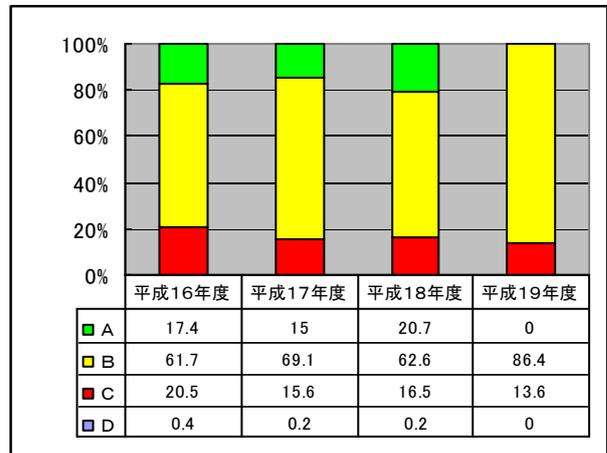
○ 自校の研修に関する各学校の反省

<市全体：平成19年度>

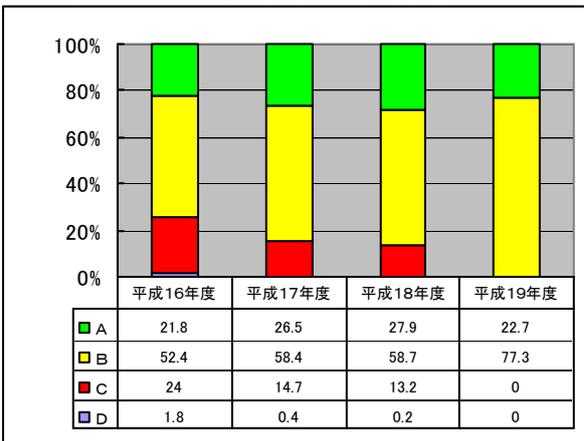
Q 計画的・継続的な研修が実施できたか。



Q 研修の工夫・改善がされたか。



Q 教育力向上のための授業公開の推進はできたか。



「A」：十分 「B」：おおむね十分
 「C」：やや不十分 「D」：不十分
 ※ アンケートの対象はこれまで各教職員でしたが、平成19年度からは各学校対象に実施したものです。

第4章 教育活動を支えるもの

- ・ 計画的・継続的な研修については、おおむね十分とする割合が90%以上となっています。
- ・ 平成18年度から市内の全中学校区で実施されている学びの一体化により、各中学校区で園及び小中学校が連携して継続的な取組が展開されていることによるものと考えられます。
- ・ 研修の工夫・改善については、やや不十分とする割合が10%以上となっています。これは、日常の教育課題が山積し多忙化するなかで、研修の工夫や改善に効果的な手立てが十分見いだせない現状を示しています。
- ・ 教育力向上のための授業公開の推進については、十分、おおむね十分とする割合が年々増加し、授業公開をすることで研修を深めていることが分かります。

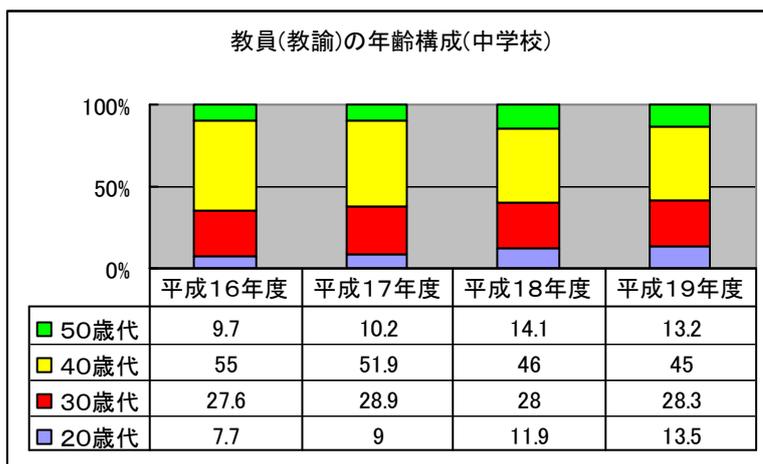
○ 平成19年度研究主題一覧

	学 校	研 究 主 題		領域・教科	年 次
1	中部中学校	自ら学ぶ力を育てる	3年次	全領域	3年次
2	橋北中学校	豊かな体験を通して、仲間とのつながりを深める	4年次	全教科・全領域	4年次
3	港中学校	心を豊かにして自主的、主体的に行動し、自らを高めようとする生徒の育成	6年次	全領域	6年次
4	塩浜中学校	「いのち」を尊重し、自らの生きる力を培う基礎・基本の力の育成	5年次	全領域	5年次
5	山手中学校	人権を尊重し、差別を許さない仲間づくり	5年次	全領域	5年次
6	富田中学校	自ら考え、未来を切り拓いていく生徒の育成	8年次	全教科・全領域	8年次
7	富洲原中学校	聴き合い、学び合う授業づくり・仲間づくり	2年次	全教科・全領域	2年次
8	笹川中学校	豊かな表現力の育成をめざして	7年次	全領域	7年次
9	南中学校	心を育む授業づくり	4年次	全領域（道徳）	4年次
10	三滝中学校	一人ひとりが輝き、互いに響き合う集団の育成（支え愛・認め愛・高め愛）	2年次	全領域	2年次
11	大池中学校	生徒をつなげる授業づくり	1年次	全領域	1年次
12	朝明中学校	一人ひとりを生かす指導のあり方	3年次	全領域	3年次
13	保々中学校	関わり合いささえ合う活動を通じた自ら学ぶ意欲の育成	3年次	全領域	3年次
14	常磐中学校	コミュニケーション力の育成	1年次	全教科・全領域	1年次
15	西陵中学校	「基礎・基本の徹底」をめざした授業づくり	2年次	全教科	2年次
16	西笹川中学校	自ら学び考える力を育てる	2年次	全領域	2年次
17	三重平中学校	「確かな学力」を育てる授業のあり方	2年次	全教科	2年次
18	羽津中学校	確かな学びを实践する生徒の育成をめざして	3年次	全領域	3年次
19	西朝明中学校	互いに学びあう教科学習	3年次	全教科	3年次
20	桜中学校	ともに学び合い、分かち合い、高め合う生徒の育成	2年次	全領域	2年次
21	内部中学校	生きる力を育てる教育活動の創造	4年次	全領域	4年次
22	楠中学校	ひとりひとりを生かす場の創造	4年次	全領域	4年次

- ・ 平成19年度に研究主題を新たに設定した学校は、基礎・基本や確かな学力とともに、「学び合い」を図るなかでのコミュニケーション能力の育成に関する内容が多くなっています。
- ・ 研究領域は、全領域とする学校がほとんどですが、ポイントをさらに絞って、全教科を領域に限定して研究を進めている学校もいくつかあります。
- ・ 上記2点は、教科の授業の指導主事要請回数の増加とも関連し、多くの学校で各教科の授業を大切に、研究を進めていこうとしていることがはっきりと表れてきているといえます。

○ 教員（教諭）の年齢別構成割合

- ・ 20歳代・30歳代の占める割合が、毎年2ポイントずつ増加し、40歳代・50歳代が毎年2ポイントずつ減少しています。
- ・ 少しずつ世代交代が進んでいることが分かります。



○ 指導課・人権同和教育課への要請訪問数（平成19年度）

<指導課>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	0	9	23	11	3	6	14	11	8	8	4	0	97
平成17年度	0	3	17	4	16	3	16	15	6	9	19	2	110
平成18年度	0	7	15	4	11	8	14	19	7	15	22	7	129
平成19年度	0	2	27	13	21	4	23	17	9	14	7	0	137

<人権・同和教育課>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	0	2	3	0	13	4	8	5	3	3	4	1	46
平成17年度	0	0	5	1	9	0	8	9	6	0	6	2	46
平成18年度	2	6	12	10	10	3	12	18	10	5	4	1	93
平成19年度	1	1	5	5	6	4	11	16	4	3	4	1	61

- ・ 学校の授業研究・講演などに、助言・指導者として要請を受ける回数が年々増えてきています。人権・同和教育課では、いじめ問題に関する研修会が多かった平成18年度に比べると回数は減少しましたが、教育現場を取り巻く現状を考えると、今後、増加する傾向は続くものと思われます。

課題（今後の方向）

- 学校教育ビジョン重点1の毎日の授業の充実のために、研修委員会を中心として計画的で工夫された校内研修を一層充実し、教職員の資質向上を図っていきます。
- 基礎・基本の徹底をはかり、確かな学力を定着させていくために、一人一人の教師が積極的に授業を公開し、外部の講師や管理職等からの指導・助言を受け、指導方法や技術等の向上に努め、授業力を高めます。
- 学びの一体化による中学校区内での授業公開や研修会の工夫・充実を一層進め、小・中学校間の指導内容の相互理解と指導方法の連携を図っていきます。
- Q-U調査や特別支援教育に関する研修など、時代の要請や変化、現代的課題に対応した研修も取り入れていきます。
- これから進んでいく教師の世代交代を踏まえ、初任者研修や10年研修など、経験年数にあわせた適切な研修を計画的に進めていきます。
- 学習指導要領の改訂を踏まえ、平成24年度の完全実施にむけて、その趣旨の定着を図っていきます。